

## キヤノン株式会社

### 2016 年第 2 四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

**Q1. 外部環境が厳しい中で新しいキヤノンを見せていきたいとのことだが、具体的にどのようなことか？**

**A1.** キヤノンは今年から新たな五カ年計画をスタートさせている。オフィス機器やカメラなど既存事業の2016 年年間見通しは、為替込みで対前年約 10%の減収となるが、ネットワークカメラや有機 EL 製造装置に代表されるグループ子会社の産業機器、ナノインプリント、商業印刷といった新規事業の見通しは同+11%と見ており、下げ幅を緩和させている。なお、新規事業の全体に占める割合は 2014 年が約 10%、2015 年が 13%、今年の見通しは 15%程度にまで増加する見通し。当社は、世界経済や為替を含む外部環境が想定以上に悪化したことで下方修正としたが、5 カ年計画の中で新規事業の早期拡大を狙って進む方向は間違っていないと思っている。

**Q2. 既存事業は筋肉質でシェアも高いため抜本的に変わるのは難しく、やはり成長のためには新規事業をどうするかにかかっているということか？**

**A2.** 既存事業は収益源であり、大きな成長は期待できないが、その生み出す利益をもとに如何に新規事業を立ち上げるか、という観点で重要である。

**Q3. デジタルカメラの市場台数について、今回スピーチで言及がなかったが、前回から変更ないか？**

**A3.** 他社の動向を窺い知る限りでは、レンズ交換式カメラについては熊本地震の影響でおそらく市場は前回見ていた 1,150 万台からは縮小していくのではないかと考えている。

**Q4. 東芝メディカルシステムズ社に関してだが、連結対象となる時期や買収後のキヤノンの戦略については？**

**A4.** 現在、競争法規制当局のクリアランス取得を進めている最中で詳細には把握していないため、現在お話しできることはない。

**Q5. レーザープリンターについて、需要と供給をマッチさせるために一時的に販売見通しを下げるといふ説明だが、今の状況でギャップがまだあるのか。2017 年はどうなのか？**

**A5.** ギャップについては正確には分からないが、レーザープリンターが 2 四半期連続で大幅マイナスとなった要因は二つあり、一つは売上の 6 割を占める新興国の低迷が想定以上であったこと、もう一つは商流の複雑化によって、市中在庫水準を正確に把握することが難しくなり、対応が遅れがちになってしまったことである。この、市中在庫を的確に把握すべく、OEM 先と連携しながらその対応に取り組んでいる。前向きな話としては、この下期以降は先進国で順調な販売となっている新製品を新興国でも展開していく。

**Q6. レーザープリンターにおいて、サードパーティシフトが進んでいるとしたらその対応は？**

**A6.** 技術的な進化を盛り込んだ新製品を投入していくことが一番の良策になる。今回の一連の新製品も本体のみならず、消耗品も刷新した。これら新製品の本体を市場へ十分に設置した後に、自ずと新しい消耗品につながってくるため、それが我々にとって最も重要な戦略となる。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性をご承知おき下さい。